2025年度活動報告（案）

1．支部幹事会

【2025年度方針】

支部幹事会を定期的（年6回）に開催し、医科・歯科会員の連携のもとに魅力ある支部活動の展開に努め、支部活動の活性化を図る。

【2025年度活動報告】

原則、第二金曜日（隔月）を定例日として、7月、9月、11月、1月、3月、5月に幹事会をWEB併用で開催。幹事会では主に、医療情勢の検討・分析、支部研究会の開催、ハイキングの企画、会員増加、評議員の補充等を議論した。

また支部幹事や評議員、支部会員との交流活発化等を目的に、ラインワークスを活用した情報提供・意見交換の場の拡大に取り組んだ。支部幹事間における情報交換・日常交流をはじめ、評議員や支部会員に向けては、日頃の支部活動について随時報告。小児医療費助成に関する要望書の提出に関して報告した際には、後日、小児医療費助成に関して数多くの意見が寄せられた。上記の支部会員との双方向コミュニケーションの効果などについて、拡大財政部会で報告した。

【成果と教訓】

医療情勢や会員の動向などの状況から、支部として取り組むべき課題について意見交換することができた。ラインワークスの普及などこれまでの取り組みについて、進捗状況、効果などについて検討できた。引き続き会員を代表した支部幹事の問題意識の具体化を進めることが肝要である。

2．支部研究会

【2025年度方針】

支部会員のニーズ・動向を把握し時勢に合った研究会を開催する。医科・歯科連携に重点を置いた研究会、経営・税務に関する学習会、従業員向けの講座など、会員に有益な講習会等を企画・開催していく。

【2025年度活動報告】

2025年度は、「2026年　医療業界の採用最前線―人材不足時代の採用・定着・組織づくり―」をテーマに、2026年3月26日に支部研究会を開催。講師は、株式会社Dental Happyの野崎卓朗氏が務め、14名が参加した。当日は、求人環境、求人手法、採用成功事例、トラブル事例、応募後のポイント等に加え、Z世代の採用戦略、離職率を下げる仕組みなどに触れ、会員の求人に対する知識の更新と、ノウハウを伝授した。

求人をテーマとした講演会については、ラインワークス上での意見交換からテーマの着想を得た。協会の他部署で開催した際の講師に依頼を行おうとしたが実現せず、ラインワークスを活用して改めて支部幹事に知り合いの業者の紹介を依頼、実現にこぎつけた。

【成果と教訓】

人手不足が顕著となり、会員ニーズが高まるなか、求人をテーマに粘り強く開催を模索し、支部研究会を開催することができた。引き続きラインワークスなども活用しながら、支部幹事会での確認を踏まえ、開催を実現する。

3．支部ニュース

【2025年度方針】

支部独自の運動や研究会企画等を中心に、年1回の発行に努める。

【2025年度活動報告】

支部総会の案内や2025年度活動報告、2026年度活動方針（案）、相模原支部研究会、小田原石垣山一夜城跡ハイキングなどを掲載した。相模原支部ならではの特集についても、支部幹事会で検討した。

【成果と教訓】

活動方針の通り、支部ニュースの発行を実現。さらなる紙面の充実のため、支部幹事会において相模原支部ならではの企画の検討に努めた。支部会員の興味を引くに、支部幹事を皮切りに、支部会員の興味を引く記事の掲載が重要であるとの認識を共有した。

4．医療運動

【2025年度方針】

小児医療費助成の運動、帯状疱疹ワクチンの助成制度のさらなる拡大に向けた運動に取り組む。また「加齢性難聴」に対する補聴器購入費補助制度の拡充等を求め、相模原市社会保障推進協議会等と連携しながら運動を進めていく。

【2025年度活動報告】

小児医療費助成の運動については、相模原市社会保障推進協議会と連携しながら改善運動に努めた。相模原市は2027年4月より18歳まで無償とする方針を示したが、神奈川県の他の政令指定都市と比較して導入予定時期で後れを取っている面もあるため、相模原支部として早期実現を求める要望書を市当局に提出。子育て給付課より、「市長自体も記者会見で導入早めたい意向示されているところ、システム改修が必要なためベンダーと調整中だが、国のDX推進の影響でSE不足が顕著、思うように進まない状況。県や国への要望についても、これまで通り、続けていきたい」との回答を受けた。

「加齢性難聴」に対する補聴器購入費補助制度については、2024年4月1日より政令指定都市では初めて制度化されたものの、補助金額は最大2万円となっている。東京都等に比べ低額であり、補聴器の購入価格に見合う助成額でないことから、相模原市社会保障推進協議会として要望書を提出した。

帯状疱疹ワクチンの助成制度については、令和7年度4月1日より高齢者のワクチン定期接種化がされたが、助成制度のさらなる拡大について現状の理解を進めるため、総会記念講演での学習も含めて検討した。

【成果と教訓】

継続的な運動が小児医療費助成の拡充につながった。あきらめずに継続することが重要との教訓を得た。一方で小児医療費助成に対する医療者の考え方や患者の理解など課題も見られることから、制度の安定的な定着に向けた取り組みについて検討が必要と思われる。また、補聴器購入費補助制度の助成額の引き下げの実現状況を注視していく。帯状疱疹ワクチンの助成制度については、現行の制度内容を精査し、必要に応じて運動に取り組む。

5．会員の福利厚生に役立つ活動

【2025年度方針】

会員および家族・従業員が参加できる行事を計画・立案し会員相互の親睦を深める。

【2025年度活動報告】

恒例の城跡巡りは今年度「小田原石垣山一夜城跡ハイキング」を行った。4月5日、支部会員やその家族等17名が参加。ガイドは小沼副支部長が務めた。当日は天候にも恵まれ、「史跡石垣山」石碑前で集合写真を撮影。その後、西曲輪跡などを見学し昼食休憩。昼食後は桜と海・みかん畑の下り坂のハイキングし、小田原ちょうちん灯台を経由して小田原駅にて解散した。特に、桜と海・みかん畑の下り坂では圧巻の景色に感嘆の声が聞かれた。

終了後には、小田原産朝どれ地魚が売りの湘南大衆横丁で懇親会を開催し、ハイキングでの〝心地よい疲れ〟を癒した。

【成果と教訓】

相模原支部会員を中心とした参加者相互の懇親がはかれたことで、協会への所属意識を高めることができた。城跡巡りを継続していくこととともに、今後の新たなテーマ検討も重要である。

6．医師会・歯科医師会との連携

【2025年度方針】

医師会・歯科医師会との連携を保つ。三師会賀詞交歓会に支部幹事が出席するとともに、当会支部総会にも出席いただけるよう要請を行う。

【2025年度活動報告】

三師会賀詞交歓会には八木支部長が参加。協会支部総会の会場も7年ぶりにホテルセンチュリー相模大野とし、出席を求めて医師会・歯科医師会にご案内を行った。

【成果と教訓】

会員増加の推進に積極的に取り組むとともに、新たな支部幹事の発掘に努める。評議員の充足については、引き続き特に緑区・医科を中心に発掘に努める。

7．会員増加、支部幹事等の発掘、会員への情報提供等の強化・推進

【2025年度活動報告】

会員増加に向けた訪問活動では、診療報酬改定を前に署名の収集も併せて実施。既入会会員も含めた活動を展開した。診療報酬増の姿勢を示すことで、会員の帰属意識を強化することができた。2025年度は入会17名（医科13名、歯科4名）、退会22名（医科13名、歯科9名）であった。会員を増やす取り組みでは、2026年3月より未入会者の講演会への参加体験や、支部役員訪問活動など新たな取り組みを展開した。

評議員は、緑区の西脇徹先生が着任し、充足した。

【成果と教訓】

診療報酬改定の署名収集では、協会の報酬増への明確な姿勢を示すことで、会員の帰属意識を強化することができた。また支部幹事の未入会者訪問活動を検討したことにより、会員増加対策における意識の向上を図ることができた。

人手不足の医療業界、現状を打破するための採用戦略とは？

相模原支部研究会

相模原支部は3月26日、「2026年医療業界の採用最前線―人材不足時代の採用・定着・組織づくり―」をテーマに支部研究会を開催。講師は、株式会社Dental Happyの野崎卓朗氏が講演し、会場のユニコムプラザさがみはらとWEB併用で、14名が参加した。

氏によると、現在は「売り手市場」であり、歯科の場合、求職者の9割が複数の求人に応募し、働きたい職場をジャッジする状況にある。そのため、「自院の強み」を言語化できるようにし、その魅力を「チーム（スタッフ全員）で候補者に伝える努力が重要という。例えとして、スタッフが団結して、求職者の施設見学や体験を受け入れ、医院の普段の様子や仕事内容を伝えるなどを挙げた。

また、現在は、WEBを利用した採用活動が一般的のため、求人媒体の種類や特性を熟知した採用代行会社に頼ることも重要な採用戦略だという。氏は、代行会社の見極め方についても解説し、医院の様子が魅力的に伝わる工夫（魅力的に感じる医療機関やスタッフの画像を使用する等）を担ってくれる等、効果的な業者選定が重要とした。

更に、採用後のミスマッチの防止についても触れ、入社後のリスク因子となる求職者を選定するためには、適性検査の活用が有効であるとした。

また、質疑応答では、参加者からの切実な悩みにも回答した。以下に抜粋して掲載する。

〈求職者のメンタルヘルスについて〉

参加者A：最近、面接時にメンタルヘルスの既往歴を隠して応募してくるケースに悩んでいます。入職後に判明することも多いのですが、面接だけで見極める良い方法はありますか？

講師（野崎氏）：非常に多く聞く悩みです。面接の短い時間で深く踏み込むのは難しいですが、「適性検査（診断）ツール」の活用が有効です（（株）Dental Happyでも用意あり）。性格診断とは異なり、ストレス耐性や過去の傾向等を数値化できるものがあり、客観的なデータとしてリスクを感知しやすくなります。

講師：弊社が推奨しているのは「体験入社」です。実際の働きぶりや、他のスタッフとの関わりを見ることで、書類や面接では見えない「解像度」を上げ、ミスマッチを防ぐことができます。

〈ハローワークと民間求人サイトの違いについて〉

参加者B：ハローワークも最近はウェブ機能が強化されていますが、民間の求人サイトや代行会社との違いは何でしょうか？

講師：ハローワークも一定の利用者はいますが、広告費をかけて上位表示される民間サイトの方が、スマートフォンで手軽に探す層の目に留まりやすい傾向にあります。ターゲットとする年齢層や職種が、どの「プール（媒体）」に多く存在するかを見極めることが重要です。

2026年度活動方針（案）

1．支部幹事会

支部幹事会を定期的（年6回）に開催し、医科・歯科会員の連携のもとに魅力ある支部活動の展開に努め、支部活動の活性化を図る。

2．支部研究会

支部会員のニーズ・動向を把握し時勢に合った研究会を開催する。医科・歯科連携に重点を置いた研究会、経営・税務に関する学習会、従業員向けの講座など、会員に有益な講習会等を企画・開催していく。

3．支部ニュース

支部独自の運動や研究会企画等を中心に、年1回の発行に努める。

4．医療運動

小児医療費助成の運動、帯状疱疹ワクチンの助成制度のさらなる拡大に向けた運動に取り組む。また「加齢性難聴」に対する補聴器購入費補助制度の拡充等を求め、相模原市社会保障推進協議会等と連携しながら運動を進めていく。

5．会員の福利厚生に役立つ活動

会員および家族・従業員が参加できる行事を計画・立案し会員相互の親睦を深める。

6．医師会・歯科医師会との連携

医師会・歯科医師会との連携を保つ。三師会賀詞交歓会には八木支部長が参加。協会支部総会の会場も7年ぶりにホテルセンチュリー相模大野とし、出席を求めて医師会・歯科医師会にご案内を行う。

7．会員増加、支部幹事等の発掘、会員への情報提供等の強化・推進

紹介・訪問活動を中心に会員増加の推進に積極的に取り組むとともに、新たな支部幹事の発掘に努める。

評議員の充足については、引き続き特に緑区・医科を中心に発掘に努める。

また、ラインワークスを活用し、支部会員との交流を活性化するとともに、有益な情報等を提供に努める。